

CSI JOURNAL

2020

Center for Social Innovation Initiatives

つづく社会をともに拓くには？

女性起業家 × クロストーク

vol.1

田澤麻里香さん（佐久 | 株式会社KURABITO STAY 代表取締役）

清水由佳さん（長野 | NPO法人カシオペア理事長 / 株式会社CONNECT 代表取締役）

vol.2

折山尚美さん（飯田 | 株式会社松澤 取締役）

綿引遙可さん（諏訪 | 合同会社chioko 業務執行社員）

CSIの様々な活動紹介

人材育成 / 公開講座 / SDGs / 包括連携協定
県内各地域の活動 / 進行中のプロジェクト



長野県立大学

THE UNIVERSITY OF NAGANO

What is CSI ?

持続可能な社会の実現を目指して

2018年4月、長野県立大学の開学と同時に立ち上がった「ソーシャル・イノベーション創出センター(Center for Social Innovation Initiatives, CSI)」は、「社会課題を生まない」「社会課題を解決する」ことに理念を持つ方が一歩を踏み出せるエコシステムを醸成し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

社会の新しい変化 ソーシャル・イノベーションを促進

大学内外の多様な人や知的資源、地域や企業など、多様な人々が絡み合う「オープン・イノベーション」を基本とし、社会の新しい変化「ソーシャル・イノベーション」を促進します。県内外のイノベーターやプロフェッショナルと、学生や教員、企業、行政機関、地域などを相互に結び、社会的課題を解決するための新しい仕組みやサービス、商品などの開発を促進します。

社会的課題に取り組む事業者・創業者等を支援

専任キュレーターや大学内外の専門家によるコンサルティング	信州ソーシャル・イノベーション塾 専門職・女性起業塾 家業イノベーション塾	事業者などへの オープン・イノベーション支援
イノベーションにつながるネットワーク促進	SDGs推進	審議会・企業研修などへの講師派遣、 共同研究等の推進

地域の企業へ学生を派遣、社会人の大学へのアクセスを促進し、大学の知を地域に還元

知と実践の循環

地域におけるイノベーションの実像をロールモデルとして学生に提示し、次世代のイノベーターを養成

創業者・経営者付き長期インターンシップ・プログラムの開発	問題解決型授業(Problem Based Learning)の連携先の開拓
社会人ボランティアのティーチング・アシスタント発掘	学生と県民がともに学ぶ公開講座の開催

大学教育との連携



社会課題解決に向けてのコーディネート

社会課題解決に向けて多くの皆さんの相談に応じます。各地域に常駐する地域コーディネーターを相談窓口、大学やアドバイザー・メンバー、事業者、行政機関などの接点を見つけ、CSIは黒子役として、皆さんを結び付けるコーディネートをいたします。

地域コーディネーター (2020年度)

県内の各地域で活躍する地域コーディネーターが、事業者や企業、自治体や地域とCSIを結びます。



CSI へのアプローチ



挑戦するエコシステム



アドバイザー・メンバー

県内外の社会起業家、専門家にアドバイザー・メンバーを委嘱しています。CSIは社会課題解決に向けて事業者や企業、自治体とアドバイザー・メンバーをつなぎます。

秋山 怜史 一級建築士事務所 秋山立花 代表 (横浜市、京都市) 母子居住支援、建築	齋藤 幸一 有限会社アップライジング 代表取締役社長(宇都宮市) 就労困難者の雇用	ボチエ 真吾 Impact HUB Tokyo(株式会社 Hub Tokyo) 共同 創業者&取締役(東京都、長野県) 社会にインパクトを生み出すコミュニティづくり
井上 英之 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授(神奈川県) ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 ファウンダー	桜井 肖典 一般社団法人リリース 共同代表(京都市) 実践ビジネス講座、地域活性化	前田 展広 前田展広事務所 代表(京都市) プロジェクトマネジャー 京都市ソーシャルプロダクトMAP編集長
井上 有紀 INNO-Lab International 共同代表(東京都) 慶応義塾大学SFC研究所 上席所員	高津 玉枝 株式会社福市 代表取締役(大阪市) フェアトレード、イノベーション・キュレーター	三木 康司 株式会社 enmono(エンモノ)代表取締役 (神奈川県) マイクロモノづくり
岡 勇樹 NPO法人Ubdobe(ウブドベ)代表理事(東京都) 医療福祉エンターテインメント	但馬 武 fascinate株式会社代表取締役社長(横浜市) ビジネス・コミュニティ・デザイナー、 社会起業家のコミュニティづくり支援	村上 草太 樹ウフル X United Branding & Communication Centerリダー(大阪市) IoT導入支援、ハッカソン等による コレクティブ・インパクトの実践、IoT人材育成
鬼丸 昌也 認定NPO法人テラルネッサンス 創設者・理事(京都市) 海外紛争被害者支援	田中 慎 田中経営会計事務所代表(大阪市) 税理士、中小企業診断士、京都市ソーシャルイノベ ーション研究所(SILK)イノベーション・コーディネーター	桃原 祥文 株式会社九電ビジネスフロント部長(福岡県) 健康マネジメント
川添 高志 ケアプロ株式会社 代表取締役(東京都) 革新的ヘルスケアサービスのプロデューサー	成澤 俊輔 株式会社YOUTURN 取締役(福岡市) 地域の中小企業・ベンチャー企業の経営コンサルティング	由井 真波 有限会社リンク・コミュニティデザイン研究所 代表(京都市) コミュニティ・デザイン
熊野 英介 アマタホールディングス株式会社代表取締役 会長兼社長(京都市) 持続可能社会を目指す未来デザイン	西村 勇哉 NPO法人ミラツク 代表理事、理化学研究所未来戦略 室 イノベーションデザイナー(京都市、東京都) 未来 潮流を捉えた戦略・事業開発、未来共創のためのミク ロ視点調査等	渡邊 さやか 一般社団法人 re:terra 代表理事(東京都) 女性企業家支援

女性起業家 クロストーク

Vol.1



株式会社KURABITO STAY
代表取締役

田澤麻里香さん(佐久)

Tazawa Marika

長野県小諸市出身。大手旅行会社勤務後、「観光地域づくり」による地域振興の一環として2019年起業、2020年世界初となる。現役の酒蔵で蔵人体験ができる国内外の日本酒ファンが集う酒蔵ホテル KURABITO STAYをオープン。

NPO法人カシオペア 理事長
株式会社CONNECT 代表取締役

清水由佳さん(長野)

Shimizu Yuka

長野市出身。保健師・看護師。13年間保健師として長野市役所勤務後、2016年、NPO法人を立ち上げ通信制高校サポート校・福祉事業所を設立。2020年、株式会社CONNECTを設立し、働きにくさを抱える人と雇用する企業の隙間を埋めるサポート事業を実施している。



聞き手：間藤まりの

Q1. コロナ禍で、事業環境はどのように変化しましたか？業界、そしてご自身の現在地を教えてください。

田澤 観光においては字の如く、“禍(わざわい)”が降りかかった1年でした。大型の宿泊施設が倒産していくのを見て、ひとつの時代の終焉を感じています。「KURABITO STAY」も4月のオープン予定が3ヶ月ほどずれ込みました。観光は現地に行って体験し、消費を促すのが大前提。新しいツーリズムのあるべき姿を、知恵を絞って模索している最中です。

清水 時代の変化は福祉の世界でも感じますね。私が仕事で関わるのは、どちらかという変化に強い恐れを感じてパニックになりやすい、発達障害やメンタル疾患をお持ちの方です。コロナは、ただでさえ知らないうちに不安として暮らしに入り込んできて、情報自体が心を蝕んでいきます。心配で動けなくなったり、眠れなかったりといった声は今も続いて、まさに真っ最中。ただ、そういった声に対して科学的な根拠から話をするようになったのが個人的に一番の変化でした。「季節の変わり目は落ち着かないよね」と言っていたのが「それは脳の病気でね」という具合です。伝え方を変えると患者さんの方から「それなら仕方ないよね」ってリアクションがあったりして、大きな変化をみんなで乗り越えた1年でした。

田澤 人との繋がりが信頼、とても感じました。私たちの宿は泊食分離型です。近隣の飲食店が「呼び込まないで」となってしまえば成り立ちません。地域全体が信頼し合っているで生き残る大切さを改めて感じています。補助金申請のお手伝いなど、**自分たちができるサポートをしながら、同じベクトルを持って協力し合える仲間との関係が強化されました。**

清水 個人的には、こうしてオンラインを通じて圧倒的に人に会いやすくなったとも感じています。**時間の使い方が変わって、本当に大好きな人、会ってみたい人とお話する機会が増えましたね。**

田澤 オンラインは観光分野でも活用が始まっています。体験をバーチャルで100パーセント補完はできませんが、「いつか行きたいと思っていたのが、“絶対に行きたい”に変わった」という声もいただいて、**結果的にお客様と強い繋がりができました。未来の消費につながるブランディング**というか、**海外への訴求も高めていけるのではないかと**感じています。

清水 ITの進歩、ワクワクしますよね。

田澤 想像していたことが実現したり、逆に当たり前ができなくなったり。新しい技術が開発されて、未来は面白いことがたくさんあるだろうなって思っています。

Q2. 長期的な視座に立って、事業で最も大事にしてきたことはなんですか？

田澤 会社のミッションは“100年後も誇れるふるさとを守り伝える”。起業のきっかけは“故郷が消えてしまうかも”という危機感でした。ただ目を瞑っていることはできなくて、でも1人では守れなくて、大好きな観光を通じて問題提起をしたいと考えました。酒蔵ホテルは守り伝える戦術の一つです。経営面では、主婦目線で固定費を徹底的に削減したのが功を奏していますね。レジリエントな観光地、環境変化への対応も大切にしています。

全世界を一齐に危機に陥れた「COVID-19」対策によりさまざまな制約が生まれ、地球上に生きる人すべてが当事者であると言ってよい状況になりました。過酷な環境の中、地域経済やコミュニティを支える事業者は、何を堅持し、何を諦め、何をとり入れたのか。インタビューでは「変わらぬ本質と新たな挑戦」と題し、コロナ禍における事業の「現在位置(Presence)」、持続可能な事業を続けていくための「信条(Policy)」、市場における「未来の見通し(Predict)」そして「未来の可能性(Possibility)」について、長野県内4人2組の女性起業家にお聞きします。

Presence

Policy

Predict

Possibility

Cross talk

Vol.2



株式会社松澤 取締役

折山 尚美さん(飯田)

Oriyama Naomi

新潟県上越市出身。nature parlor fukuume代表、株式会社松澤取締役。飯田市内にカフェやレストランを展開。2017年には一般社団法人 空家人情プロジェクト理事として天龍峡の土産店を再生した「古民家カフェ テンリュウ堂」の開店にも尽力。「地域密着」「地域の財産をどれだけ残せるか」をテーマに地域おこしに積極的に取り組む。

合同会社chioko 業務執行社員

綿引 遙可さん(諏訪)

Watahiki Haruka

茨城県水戸市出身。長野県諏訪郡下諏訪町にて、地域おこし協力隊として移住定住促進を担当。任期満了に伴い、2020年、まちづくり会社「合同会社chioko」を地域おこし協力隊の同期と設立。「小さくおこす、地域の黒子」の役割で、創業支援や商店街活性化など、町で暮らす人が愉しく生きると手伝いを仕事化する働き方を実践中。愛称は「ひっさー」。



聞き手：北林 南(長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター 南信地域コーディネーター)

Q1. コロナ禍で、事業環境はどのように変化しましたか？

折山 私たちが大切にしているのは、地域の人に愛されるカフェ。縁をいただくたび、どこかしらリノベーションして開業し、12年で5店舗になりました。今年度はとにかく“みんな一丸となって頑張るぞ!”という1年で、本業のカフェ以外にも、天竜峡の朝市や古い校舎を使ったマルシェ、飯田市内のショッピングセンターで開催した「南信州おやつとコーヒー会議」という販売会などに取り組んでいます。弱っている小規模店舗の先頭に立ってフル活動でした。

北林 急速な変化だったと思いますが、どうですか？

折山 経営的に悪いことやストレスも多かったですが、**目指す未来が早く近づいてきた実感もあります。**立ち止まって考える時間が持たなかった。コロナのおかげで、食べるものや使うもの、生活のサイクルの中に“土に還る意識”が芽生えてきましたよね。私はコロナ以前からSDGsの活動を始めていましたが、**今の方が違和感なく受け入れてもらえまし、見えなかった部分が見えて意思疎通しやすくなった**と感じています。

綿引 頭在化した感覚、すぐわかります。私たちの会社は緊急事態宣言下の4月に創業したので、描いていた事業がいくつかダメになり大変な思いもしました。でも、困りごとが見えやすい状況も同時に生まれました。補助金の申請とか、場所を開くとか、力になれる商いの種が見つかって、**“一緒に解決できたらいいよね”というスタンスで、状況を楽しむ方向にシフトできたのがよかったな**と思います。

折山 チェンジとチャンスをもたらたって感じ？

綿引 そうですね。発見の機会だったかと、今は割と前向きです。

Q2. 長期的な視座に立って、事業で最も大事にしてきたことはなんですか？

折山 元々地域密着がテーマですが、地域と小規模コミュニティはより大事になったと思っています。スーパーや飲食街が廃業して寂しくなり、高齢者が残される地域が増えました。そこに若手や地域のお店が入って行って、盛り上げるようなコミュニケーション。例えば朝市で毎週日曜に会って「おはよう」の挨拶をするとか、**改めて昔に戻るような“密着”を大切にしています。**

綿引 私たちが大事にしているのは、「八方良し」の考えです。下諏訪町はそれを自然とやっている人がたくさんいて、大事にしたいスタンスだと思っています。**どこにもしり寄せがいがない、全員が幸せと感じられる仕事しかしたくない、**というか。

北林 アナログなコミュニケーションを大切に、昔から当たり前にあるものをもう一度見直すという感じでしょか。

折山 アナログっていいですよ。小さい地域だからみんなイベントにも出てきてくれると思うので、安心安全であり、知らない人はいないっていう良さはあると思います。

綿引 そうですね。最初はやってもらってばかりで申し訳ないと思っていたんですが、協力隊のときに“好意を受け取ることで相手にも喜んでもらえる”という実感があって。さらに

コロナ禍で“あのおばあちゃんとまたご飯食べたいな”とか、こちらも相手を必要としていたんだと痛感しました。安心して関わり合える関係って素敵だなと改めて感じています。

Q3.トレンドや背景を踏まえつつ、未来はどうなっていくと思いますか？

綿引 頭で考えていたことを肌感覚で感じているのが今だと思っています。大きな仕組みの中で生きていくのが難しくなりはじめて、“じゃあ自分はどうする？”って考える人が増えると思います。「私これがいいと思っているからやるんだ」って。私もそうですが、個人の選択を実行できる未来になったらいいですね。

折山 大切な人と一緒にいるのが大切だと感じています。どちらかという**“仕事はどこでもできるんじゃない？”って立ち返っている実感**があって。そういう意味で、地方への移動は増えると思います。南信州も移住定住は増えていますね。

北林 “地域”というものが見直されている感じですかね？

折山 もう**“自由にできる宝の山”がまざまざと見えている状態**だと思います。安心が積み出ているこの土地を味方に、プライダルや通販など新たな事業をいくつか考えていて。この土地じゃないとできないことを受け取ってもらいたいですね。

綿引 安心感の宝庫っていいですね。ワクワクすることを小さく仕事化する支援をしているのですが、地域ならではの顔の見える関係性で育てていくものだと感じていて、それも、**安心がふれる状態**を作っていきたい、という思いに通じていますね。

Q4.最後に未来の可能性について、お伺いできればと思います。

綿引 私たちにできるのは“等身大であり続けること”。安心してもらえる存在で居続けたいです。大きさに拘らず、困りごとを解決していくスタイルを貫きたいですね。大きさに拘らず、その場にあるものを興して仕事にする。組み合わせで生きていけるっていう提案ができたらいいなと思います。

折山 今ある財産をどこまで残せるかが鍵だと思っています。マツザワの若い力やアイデアで、地域を上手に発信したいです。コロナが収まっても、**今回見つけた愛情や満たされ感、抑揚感、達成感は地域にあり続けろ**と思うので、南信州全体でブランディングしていきたいです。

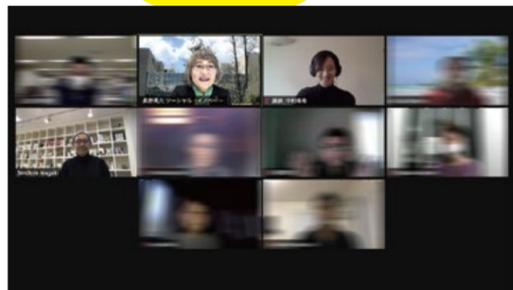
綿引 地域にある満たされ感、わかります。街に愛着のある人が多い地域っていいなと思っていて、気付けさせてもらってラッキーだったと思います。

折山 だからやるんですもんね。現実に戻ればリアルな課題が目の前に山積みなので、止まらず続けていきたいです。

綿引 県内あちこちに同志がいるのにワクワクします。暗く辛いこともあると思うけど、楽しいこと描いて形にしていましょ。

人材育成

Human Resource Development



塾長：秋葉チーフ・キュレーター

講師陣：稲垣 聡一郎氏 (Transform LLC.Co-Founder and Partner)
中村 珠希氏 (epiQ Co.,Ltd.取締役)開催：1日コース 2020年10月23日
連続コース 2020年11月13日～2021年2月19日(全4回)

Human Resource Development

KISO女性・若者起業塾 北信地域 地域おこし協力隊起業塾

今年も、木曾、北信の地域振興局と共に、起業塾を開催しました。アクションしてみたいが起業に踏み出すにはどうすればよいのか、起業を考えているがどのように進めればよいのか、コロナの中で挑戦してもいいのか悩む、そんな皆様の背中を押しました。木曾地域は昨年の評判も広がり塾生17名。10年後の地域を支える起業家が誕生しそうです。

KISO女性・若者起業塾(長野県木曾地域振興局主催)
2021年1月26日～3月5日 オンラインと対面・集合型形式(全3回)北信地域 地域おこし協力隊起業塾(長野県北信地域振興局主催)
2021年1月28日～3月16日 オンライン・各自参加形式(全3回)

塾生の声

■ 学んだ「バックキャスト」は、まさに以前、店舗オープンの際に知らずに使っていました。もっと学んで地元から地域を活性化させていきたいです。

■ 都会でやっていた経験を活かした店を出したいと思っていて、塾に参加して、はっきりとやれる気がしてきました。頑張ります。

■ 久々に多くの気づきや見えていない世界を見れた気がします。



Human Resource Development

信州ソーシャル・イノベーション塾 2020

毎年開催の信州ソーシャル・イノベーション塾、コロナ禍でもなんとか開催を、と開催方式を変更して実施しました。

ひとつは、コロナ禍で経済的に傷んだ方々にも学びの機会を、という思いで、初の「1日コース」を設定しました。もうひとつは、感染状況に左右されない完全なオンラインでの開催に踏み切りました。ワークを多用する「連続コース」も、講師陣の協力で、昨年から大きな内容変更を行わず開催。隣接県外も含めた、意欲ある方々が塾生として集まりました。自らの力でイノベーションを生み出していく仲間がまた増えました。

塾生の声

■ コロナ禍で交流の機会が減っている日々です。学びながら人と触れ合う良い機会となりました。

■ 生みの苦しみを痛烈に感じましたが、コース終了後は不思議な爽快感を感じることができました。

■ 他の受講生のみなさん、そして同じチームのみなさんの意見やアイデアが参考になるものばかりで、素敵な刺激をたくさんいただきました。

■ 受講することで「何が変わるのか」ではなく、「自分がどう変えていけるか」という主体的な視点からの問題として受け入れることができるようになりました。

■ 長野県だけでなく、遠方の方と繋がれるのはオンラインのメリットと感じました。また、資料もデータでいただけるので、振り返りに使いやすいです。

■ 今回のソーシャル・イノベーション塾は、非常に爽りの多いものだったと改めて実感しております。先生方には、受講しやすい雰囲気を作ってください、ありがとうございました。

extension lecture

長野ミライ会議× 県立大学コラボ公開講座

多様なテーマ(教育・コミュニティほか)で長野市に学びの場をつくりたい人たちに運営する勉強会「長野ミライ会議」と共催した公開講座を実施しました。本講座では、ゲスト講師からの学びだけでなく、感想・気づきの共有など、参加者同士の学びも大事にして、これまで数十回の講座を運営してきました。

3年目となる今年は、新型コロナウイルス対策の影響でオンラインで開催しました。オンラインでの開催は、参加者同士の交流がなかなか生み出せないため、参加者同士の気づきや学びが生み出せるのか不安でした。しかし、ブレイクアウトルーム*では、進行役がいなくても参加者同士の活発な意見交換が行われ、様々な学び・気づきを生み出すことにつながりました。3年目を迎え、着々と学びのコミュニティが育っています。

*ブレイクアウトルーム・・・オンライン会議ツール「Zoom」内の機能で、小さなグループを組むことができる機能です。今回は、4人1組の小グループをつくりました。

日付	テーマ	ゲスト
7月14日	ソーシャルイノベーション創出センター(CSI)って何?	●秋葉芳江 (ソーシャル・イノベーション創出センターチーフ・キュレーター)
8月4日	ローカルな「集う場」のこれから	●堀下恭平氏(株式会社しびくばわー代表取締役社長) ●藤本遼氏(株式会社ここにある代表取締役/場を編む人) ●土肥梨恵子氏("HATSU鎌倉"コミュニティマネージャー/株式会社ライフノート役員)
10月29日	ローカルメディアのこれから	●NHK長野放送局 ●長野朝日放送 ●信濃毎日新聞社

Extension lecture

長野県立大学CSI公開講座

本講座は、第一線で活躍する経営者をはじめとする実践者から、持続可能な社会づくりのために必要な知識や考え方、未来へのヒント等を得るためにCSIが主催で開催するセミナーです。

参加者の声

■ 実際の経営者さんの話を聞けて有意義な時間を過ごすことができた。

■ ホンモノになっていくこと。選ばれる仕掛けをつくること。みんなでマチをつくっていくこと。変えていくこと、変えてはいけないこと。僕も挑戦していきます。



公開講座

Extension lecture

Extension lecture

長野県立大学理事長裁量経費採択事業/学生先導型CSI公開講座

UNMUTE YOURSELF ～「グローバル」サイコウ!?

本講座は、海外の著名有識者の特別ライブ配信イベントに参加し、インスパイアされた本学グローバルマネジメント学部の1年生が中心となり、本学グローバルセンター、CSIのサポートを得ながら、企画の骨子づくり、ゲスト調整、フライヤー制作、当日の司会進行など一連の活動に取り組み、グローバルを改めて見つめ直す機会の提供を目的として実施しました。大学生の行動力と熱量に驚かされました。世代、居住地、国籍の違う方々と何度も打ち合わせを重ねながら、自分たちの理想に近づけられるよう調整する経験を通して、学生も大きく成長しました。成功したこと、失敗したこと、あると思いますが、今回の経験は今後に活きると確信しています。

参加者の声

● 学生でありながら、このような企画をしてくださったこと尊敬します。

● 外国の方には「英語(その他言語)で話しかけなくてはいけない」という気持ちがずっとありましたが、自分の「この人と話したい!」という気持ちを大事にコミュニケーションを取っていきたいです。良い時間をありがとうございました。

日付	テーマ	ゲスト	企画進行
12月16日	●居場所づくり「居場所」を求めて～ゲストハウスオーナーと考える「自分の居場所」～	●飯室 織絵氏(1166バックパッカーズ宿主) ●内海 祥子氏(オランダで日本人向けゲストハウス運営)	中島歩夢
12月21日	●多文化共生 多文化共生を考える	●金田 ブレンドラ氏(翻訳者、通訳者)	大野真歩
2月17日	●アート Arts in a Trans-Global Time	●ロジャー・マクドナルド氏(MADプログラム・ディレクター/NPO法人AIT副ディレクター)	前川素絵
3月5日	●アイデンティティ GROWばる～as a member of globalization～	●Melissa Lee氏(ニュージーランド国会議員)	菊地美希

Extension lecture

デリバリー・アカデミア(旧出前講座)

2020年度「デリバリー・アカデミア」実績一覧

実施年月日	講師派遣先	テーマ	講師
2020.6.22	木曾青峰高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場 智一 准教授
6.30	須坂市立東中学校	だれでもできる哲学対話	馬場 智一 准教授
12.1	松本県ヶ丘高校	地域社会における男女共同参画について	築山 秀夫 教授
2021.3.26	長野市生涯学習センター	地域産業の活性化要因について	尹 大栄 教授



GM学部1年 中島歩夢さん

自分の興味があった『居場所』についてのイベントを企画し、運営する中で一人一人が思い描き、心に秘める多様な『居場所』を知ることができました。

GM学部1年 大野真歩さん

私は、自分の経験を誰かと共有することに魅力を感じたとともに、その難しさを実感しました。何事もやってみなきゃ始まらないと改めて感じます!!

GM学部1年 前川素絵さん

UNMUTE YOURSELFでの活動は、非常に充実した時間でした。講師のロジャーさん、UNMUTE YOURSELFの仲間、グローバルセンターの皆様、CSIの川地さんに感謝しています。今回のイベントをこれで終わらせるのではなく、継続したいと思える活動でした。実感すると同時に良い経験になりました。

GM学部1年 菊地美希さん

イベント全体のコンセプトは同じなのに、各コンテンツで表現方法が違うところが面白かったです。表現したいことを、他の方と力を合わせて表現していくことの難しさを実感すると同時に良い経験になりました。

IYAMA

飯山北信

エコシステム形成を支援する

「飯山グッドビジネス」は、長野県飯山市を元気にしたいと願う事業者や、応援する人々が集い、飯山市の地域課題をビジネス手法で解決することで、未来を切り拓こうとする取り組みです。本センターが開所した2018年、早い時期に熱心に来訪していただいた自治体が飯山市。2018年には包括連携協定を締結し、この「飯山グッドビジネス」の取組が始まりました。

2018年は、飯山の事業者自身が望む未来の姿を描き、共有する機会として、「飯山グッドビジネスミーティング(飯山GBM)」が開かれ、飯山で輝く人々を紹介する「IYAMA Good Business.net」が開設されました。さらに、女性にターゲットを絞った「いいやま女性起業塾」が始まったのもこの年で、個人事業主として開業届を出された人もいらっしゃいます。

2019年には、「飯山グッドビジネスラボ(飯山GBL)」が始まり1期生8人が参加。事業者自ら事業を再定義し、地域に必要とされ、歓迎されるビジネス作りをするため、CSIアドバイザーメンバー(一般社団法人リソース桜井肖典、風間美穂、但馬武の各氏)による事業者伴走支援が始まりました。

3年目の2020年。アドバイザーメンバーは、コロナ禍で飯山に来訪できませんでした。そのような中でも、株式会社Rebuilding Center Japan(通称リビセン)代表の東野唯史さんと大室悦賢CSIセンター長をゲスト及びアドバイザーとして招へいし「自分の仕事を大きく広げる発想力が地域を動かす」と題して、リビセン本社からオンライン配信する飯山GBMを9月に実施。2年目に引き続き、飯山GBLの個性豊かな2期生への伴走支援が行われました。そして、11月には、飯山GBL1期生、庚敏久さん(PowerdriveR117代表)の呼びかけで、屋外、かつ、3密対策徹底の上、キャンプファイアの火を囲みながら、信頼のおける生産者、料理人、飯山の生活者がそれぞれの持てるものを持ち寄り、つながる場「CHAKKA(ちゃっか)」が戸狩温泉で行われました。

新たな事業、新たなエコシステムの始まりを予感させるイベントとなりました。センター長、チーフ・キュレーター、アドバイザーメンバー、地域コーディネーター、まさにCSI総出で飯山市のビジネスエコシステム形成のサポートをしています。日本でも稀有な深い自然と育まれた文化を背景に、飯山独自の資産に基づくビジネスが生まれるよう、時には市域を越え、手を携えながら、CSIは関わりを続けていきます。



長野県地域おこし協力隊への協力

waratte代表/長野県地域おこし協力隊 杉山豊さん

10月28日、長野県地域おこし協力隊【中間報告会】に、CSIの川地さん、瀧内さんにアドバイザーとしてご参加頂きました。現在長野県内には約350名の協力隊が所属しており、その数は全国2位の人数です。それゆえに、様々な課題が山積しており、その課題を調査・分析していくことが長野県地域おこし協力隊のミッションとなっています。今回の報告会で、これまで悩みを中心にヒアリングしていましたが、お二人からのアドバイスにより、後期活動を方向転換し、実際にうまく関係を築くことができている市町村を中心に調査をしました。その結果、多くの共通点や、重要なポイントを絞ることができるようになりました。協力隊は本人の資質も大切な要素ではありますが、それ以上に、地域とどのように対話をしていくのか?あるいは行政とどのような関係性を構築していくのか?など、お二人との話の中からもその要素を垣間見ることができました。

包括連携協定締結市を訪ねる

コロナ禍で県内各地の皆様と対面でリアルにお話しすることが難しかった2020年度。CSIのメンバーは主に夏以降、状況の許す限り県内各地に積極的に足を運び、民間の皆様だけでなく行政(自治体)の皆様にも直接お会いしてその地域の課題や本学への要望などをお聞きし、本学と連携した課題解決の取組につなげるよう努めてきました。

本学ではこれまで5つの市と包括連携協定を締結して連携した取組を行っており、それぞれの市役所にCSIのメンバーが時々お伺いしてお話をお聞きしています。そうした中から市の課題やニーズを共有し、8月には秋葉チーフ・キュレーターによる須坂市SDGs研修の実施が実現しました。さらには大室センター長が市長や副市長とお会いして、連携事業について熱心に議論しました(長野市、飯山市、千曲市)。

起業家が高校生に語りかける

昨年度に続き、長野県飯山高等学校探究科1年生に向けた授業(主催:長野県北信地域振興局)を9月10日に行いました。実現したい夢を持つ人と不動産オーナーをつなぐオンラインサービス「さかさま不動産」をローンチした水谷史氏(株式会社On-Co代表)の語りを通して、挑戦と失敗を繰り返しながら自分らしさを見つけていく実像に迫りました。

長野県飯山高等学校探究科1年 保坂 花さん

挑戦と失敗を繰り返すことでより良いものをつくるという積極的な考え方や、今やっていることが今後に繋がっていくという考え方は「今しかない!」という感じがして、今を大切に生きています。また、何事も思った通りには行かないので、ずっと行動せず悩んでいるだけでは決していいものにはならないと思いました。



長野市未来政策アイデアコンペティション2020

政策アイデアの形成を通して、キャンパスが立地する長野市の未来について考える「長野市未来政策アイデアコンペティション2020」が開催されました。本事業は、長野市と本学との間で締結された包括連携協定に基づくものです。「産業」「移住」「農業」「観光」の4つの切り口から、「若者が集い、活躍するまちの実現」に向けて政策アイデアを約半年間かけて練り上げ、プレゼンテーションを行うのがゴール設定でした。10チーム程度の参加を想定していたところ、30チーム(128名)からの応募がありました。学年は入学したばかりの1年生から3年生までさまざま。参加申込文から、どの学生も長野市の課題解決へ意欲的に関わりたい思いをひしひしと感じていました。外部講師からデータや理論を活用してアイデアを考える方法を学んだ後、課題を抱える地域のみなさんにヒアリングを行うチームもあり、授業やゼミで学んだことを活かしながら、提案をまとめていきました。

最優秀賞には、大学生が長野市の観光ガイドとなり、地域の魅力発掘・発信を行うことを通じて、長野市に愛着を持ち、暮らすきっかけをつくる「長野市在住の学生による観光促進事業」が選ばれました。他にも優秀賞・特別賞をそれぞれ1チームが受賞。受賞チームにはプランを実行するための、活動支援金が授与されました。学生にとっては地域の課題解決について、現場の声を知り、考える機会になりました。長野市役所にとっても「起業したいと思う学生が多い」「長野市に魅力的な企業がない」「自分は長野市に卒業後は居ようとは思わない」など、学生たちの多様な意見はとても刺激になりました。表彰されたチームが、提案の実現に向け、さらに現場の人々と意見交換を重ねるだけでなく、提案チームへのサポートを検討し始めた主体も現れているとのこと。今回の機会が、学生・長野市役所双方にどのような影響を及ぼすのか、ひいては、長野市というまちにどのような変化が生まれるのか、期待です。



長野

学生起業家と地域の経営者との出会いをコーディネート

長野県立大学生と県内事業者のコラボレーションによる新たな取組がスタートします。長野県立大学3年生を中心に、スペシャリティコーヒーの魅力を発信するために起業した「ODDO COFFEE」のチャレンジショップが2021年春、長野駅前に誕生しました。



Biotope、始まる。

「Link with respect」をコンセプトに、長野市へ移住した女性を中心に新たな女性たちの集まり「Biotope」が、誕生しました。フリーペーパーの発刊・毎月1回の定例イベント・企業とのコラボなど、様々な活動が起こっています。長野県立大学生もイベントに参加中です。今後も、多世代がつながり、様々な展開が予定されています。



県長野地域振興局との意見交換

2月に長野地域振興局の吉沢局長がCSIへご来訪され、本学の玉井局長や秋葉チーフ・キュレーターらと意見交換がなされました。テーマは「ゼロカーボンの取組について」。長野地域振興局では既にゼロカーボン社会の実現に向け様々な取組をされていますが、脱炭素の観点からさらに新たな施策を検討されたいとお話でした。秋葉チーフ・キュレーターからは、危機感を共有し取組を加速させること、今までの取組の延長線上の普及啓発ではなく新産業の創出や既存企業のシフトの必要性、長野の強みを活かした取組と、その中での県の役割などの説明がなされ、話題はSDGsや農業にまで及び、充実した意見交換の場となりました。

HOKUSHIN

地域コーディネーターの役割と生み出す価値 ～副島東信コーディネーターの実践報告

「思考の枠を外して 暮らしの中の小さな変化を生み出すことを 大事にしています。」

地域コーディネーターは、地域で暮らしを営む人々とコミュニケーションを重ね、そこから得られる何気ない一言、小さな変化から新たな社会的価値を見出し、CSIや外部の機関との関係性をコーディネートする役割です。東信地域の地域コーディネーターに着任して半年たった2019年10月。令和元年度東日本台風と名付けられた台風19号に襲われました。改めて考えると、この襲来が地域の人々との関わりを大きく変容させ、自分なりのコーディネーター像を形作るきっかけになったように思います。その経験を皮切りに、地域で暮らしを営む人々の元に通う私自身の姿を、振り返りたいと思います。



災害時の集落のリアル

自らも被災しながら、当日も復旧も中心となって活動した集落の区長たち。その姿をみていて、これは記録にまとめなければいけないと思い、発災1カ月後からヒアリングを始めた。聞けば聞くほどこの経験は多くの人の学びにしたいことだと感じ、発災日の動きと心情の動きを「あの日、区長は。」という紙媒体にまとめた。

出張リラックススポット

台風19号発災直後、住民ミーティング。発災より休まず、泥出し作業を続けている方が多く、少しでも休まる時間が作ればとマッサージとハーブティーの振る舞いのイベントを行い、その後も被害の大きかった地域での訪問マッサージを行った。

ラーニングジャーニー構想

コロナでローンチに至っていないが、大栄建設、のらくら農場と構想。地域に滞在し、農業などを通じた「地域で学べる旅」。徳島県神山町へ視察したが残念ながらコロナ禍で中断。



地域の健康を支える体操をオンライン化

地域の健康づくりの会で、担い手の一人である鳥川寛子さんが次世代の担い手を育てたいとの思いがあると聞き、体操の手順や健康への想いをシェアする媒体として、動画を作成した。



地域企業の人手不足解消

佐久市の東京装美株式会社から動画制作の依頼。求人動画を作りたいとのこと。社長と話す中で、地元の高校を出て就職する人材の育成の場になりたいとの思いを聞いて、地域の高校への訪問を提案、一緒に回った。その中で、県立高校教職員は、定期的な人事異動があり地域企業や新しい時代の働き方に触れる機会が少ないため、キャリア形成指導の難しさを感じているという。有坂社長による仕事に関する授業、職場見学を後押しした。前年までゼロだった応募が今年度は3人。創業以来初の女性職人が4月に誕生するため、職場の環境整備を急いでいる。



移住から考える人材採用イベント

ふと参加を思いついた佐久市就職相談会で、ハローワークの人材育成事業を手がけている信州組織開発研究会の白石さんと出会い、「移住」と「人材」をテーマに意見交換するオンラインイベントを行った。

白樺クラフトを新しい地域産業に

信州蓼科エリアの白樺を地域資源として、新しい産業とするために「信州白樺クラフト製作所」が立ち上がっています。手仕事として地域資源を利用した生活用品やお土産品の企画立ち上げや、地域の女性の新しい仕事づくりという面だけでなく、寿命が70年程度と短い白樺林の保全など景観を維持していく取り組みが始まっています。



地域の企業のオンライン化

従業員10名以下の地域企業は人材が圧倒的に不足している。ただそういう企業は地域の住まいの安心のキーマンとなっていることがある。大栄建設株式会社はそんな企業の一つ。求人活動も建設業、福祉業界は苦戦することが多いと聞き、人材のマッチングと魅力の見える化(動画)の支援を行いました。地域に必要な機能を維持する狙い。



地域でデザインで生きていく

小海町地域おこし協力隊の高橋涼さん。千葉県の業界紙記者出身で、デザインで食べていきたい。協力隊期間中は副業ができず、どう進めたいかと相談。まずは協力隊の仕組み自体を俯瞰してみるところから一緒に考えてみる。その結果メンターの重要性を実感し、その上で自身がどう動くかを思索。ディレクションの大先輩として瀧内さんに入ってもらい、地域のディレクションについての可能性も視野に。その後、私の映像制作の現場を見てもらったり模索している。



出張シェフ

withコロナにおける祝いの食事

有機農家スタッフの宇田川昌輝さんが料理を仕事にしたいという。リソースを持たないゆえに軽やかに事業を展開できる点に着目し、出張料理サービスを冬にスタート。そのプロセスに伴走しています。フード配達も普及しづらい中山間地域において、Withコロナの時代に求められるサービスとして地域に喜ばれています。



リモート発酵コミュニティ NUKADOCO

大日向小学校の自主学童を運営している岩崎丈さんから複数の場所が使えるコワーキングスペースを作りたいと相談があり、まずはコミュニティを作ることに。ドーナツカフェmikko 店主塚原諒さんが発酵というモチーフを持ち込み、コンセプトを整えた。リモートで発酵するコミュニティを目指している。現在の活動は、オンラインで月1回プレストを行っています。そこでコワーキング、ラジオ、スナックなどの企画が生まれ実行されました。私は立ち上げメンバーの一人として参加。明確な目的なく知り合った方々を巻き込み、多様なリソースを持つ人がつながる場にしようとしています。



まちの先輩に聞く

実践から紐解くノウハウ～人と会うのに目的が必要か?

飯山市経済部長 出澤 俊明 さん

私の活動の原点は、地元での地域活動にあります。住んでいる飯山市北原区は戸数26戸、人口約70名の将来の集落維持への危機感が漂う準限界集落です。2006年に建築された北原公民館の囲炉裏の間で開催される「囲炉裏を囲む会」。この会は、10年以上前、首都圏と北原区との2地域居住を始められた藤木義博さんが「もっと地域と交わりたい」との思いから始まったものです。「よそからの力に頼ることも地域には必要」と考えた私は、藤木さんが作成したチラシを手にして、藤木さんの思いを地域のみなさんに伝える言葉でお話するようにしました。元から住んでいる強み、公務員という肩書への信頼...少しずつ会に集まる人が増え、今では、様々な活動がそこから生まれています。地域でもう一つ意識していたことは、地元の方の得意技を知ること。一人一人の得意技は貴重な資源です。それらに光を当ててその方が自信を持ち、それを見た人が「それなら私も」という循環を生み出します。得意技を知る最初の一步は、明確な目的がない日ごろの何気ない会話とその記憶。もしかしたら他人のプロフィール紹介が得意になるトレーニングになっていたのかもしれませんが。

仕事では観光や雇用など地域経済に関することにも関わりました。5年ほど前、たまたま目にした7世紀前半に遡る修験の山「小菅(こすげ)山」での1泊2日の山伏修行体験。山形県から先達を招いて行われるもので、見えないものの価値に強い興味と関心を持っていた私は即座に申し込みました。体験会を主催した大槻令奈さん、参加メンバーの一人



現場、フィールドにある魅力の種を見つけ、さまざまな情報を組み合わせ、価値を生み出す作業は、地域の活性化にとっても重要な営みです。その第一歩は、やはり現場、フィールドに通い、生の声を聴くこと。そこに自分の興味、関心を重ね合わせることで、前に立つかどうかは別として、時には、自ら形にすることを辞さない覚悟を持つことが重要だと考えます。そのためにも、信頼関係を築けることが重要。行政は問題が細分化された上で課題解決が求められ、業務の目的が明確になればなるほど、部分最適が進みがちです。「住民のみならず人と一緒に感動する」ことをミッションに掲げ、これからも地域に向き合いたいと思います。



CHUSHIN

中南信

連携の土台をつくる

アドバイザーメンバー桜井肖典さんから「池田町にビオホテルジャパン認証を取ってる素敵なホテルがあるから、今度つなぐね」との連絡。それがカミツレ研究所(株式会社SouGo:東京都江東区)が運営する「八寿恵荘」との出会いでした。BIOホテルのホームページを見ると「食事や飲み物、コスメ(シャンプー・石けん・スキンケア等)は、すべてBIO(オーガニック)。タオル、ベトリンネ類、さらには、施設の建材や内装材も可能な限り自然素材を使用し、再生可能エネルギーの積極的な活用を含め、CO2排出削減にも厳格に取り組んでいます。」と書かれています。こんな課題を生まない取組を進めるホテルが長野県に所在していたなんて。

その後、笠原賀子健康発達学部長と意見交換をしていた際、ふと八寿恵荘のことを思い出しました。「長野県にビオホテルがあるのをご存知ですか?何か一緒にできると良いですね」とお声がけしたところ「実は、以前より、食物アレルギーの子どもたちが安心して旅行ができるアレルギーフリー対応旅行のことを考えていた。」との回答。学部長がつながりのあるヘルスツーリズム関連団体が選考している奨励賞を「八寿恵荘」が受賞していたというご縁もありました。

「せつかくなら一つの企業に終わらせることなく、自治体の健康づくり施策でも関わりが深められたら大学としても価値がある」とのアドバイスを受け、「八寿恵荘」のスタッフを経由して、池田町役場花とハーブの里推進係の職員の方をつないでいただきました。それ以来、3者でざっくばらんな意見交換が続いています。池田町は「オーガニックタウン宣言」をされ、「ハーバルヘルスケアトレーナー」の育成など八寿恵荘との接点は非常に多く、さらには池田町出身の本学学生(グローバルマネジメント学部3年 矢口泰成さん)も参加し、身近なフィールドで行われている対話は、学生にとっても生きた実践に繋がる可能性も秘めています。これら対話を通じて、民間企業、自治体、大学というバックボーンの違う3者による実践コミュニティの形成が進み始めています。次年度は、そこでの信頼関係から共通の価値観を見出し、目的、目標、そして、アクションを固めるフェーズに移れるようにしたいと考えています。自治体の職務の多様さ、その奥深さに改めてびっくりします。それ故、メンバーが変化せざるを得ない中でも持続可能な連携を模索する意味で、メンバーがいつでも立ち返って考えられる土台をしっかりと作りたいものです。

小谷村へ

北アルプスの麓、県内有数のスキー場など豊富な観光資源を有する小谷村へ12月下旬にお伺いし、中村村長、風間副村長からお話を伺いました。2019年7月に開催された北安曇郡3村の議員研修で、秋葉チーフ・キュレーターがSDGsのお話をさせていただいたご縁もある村です。小谷村役場でもSDGsの取組を一層進められたいとのことで、村職員の皆様向けのSDGs研修開催につながる可能性も出てきました。県内のSDGsの取組がさらに進むことを願っています。

諏訪・南信州地域振興局へ

11月に諏訪地域振興局の小山局長、2月には南信州地域振興局の丹羽局長、諏訪副局長を訪問させていただき、それぞれの地域の行政課題についてお話を伺いました。CSIの地域コーディネーターの活動に加え、地域行政のトップから地域の実情を直接お聞きすることは、地域を異なる視点から複眼的に捉える上でとても有益で、CSIの取組を考える上で大変参考になりました。

林業士入門講座

樹木の伐採等、森林の管理だけでなく、地域と関係しながら生業(なりわい)をつくっていく講座「林業士入門講座」。そのキックオフとなった地域との関係をつくっていくための講座に瀧内地域コーディネーターが登壇しました。自分がやりたい企画のために、おろそかにしがちな対話の大切さを実感を交えながら体感し、聞くことと話すこと、対話を通じて地域を観察することから生まれる、地域にとっての「必要」から生業を組み立てていく人材になっていくよう願っています。



ローカルディレクターの育成

全体を俯瞰し、同時に詳細をつくり込むことで地域を変えていく「ローカルディレクター(またはローカルコーディネーター)を育成しようと、塩尻市シビックイノベーション拠点「スナバ」スタッフと協働し、知識を積み上げるために地域で活躍するディレクターたちの公開インタビュー、打ち合わせ過程をオンラインで行うなど、公開プログラミングとして継続しています。

南信地区で開催!
デザイン思考体験ワークショップ・エシカルイベント

イノベーション創出のためのデザイン思考体験ワークショップが、10月に下伊那郡松川町で開催されました。相手のニーズの本質を掘り起こすデザイン思考をクイックに体験できるこのワークショップ。「信州ソーシャル・イノベーション塾 第2シーズン2019」でデザイン思考を学び、つながりを持った卒塾生数名による企画です。上野敏良さん(卒塾生・株式会社U-NEXUS代表・長野市)が講師となり、ビジネスはもちろん、普段の生活にも役に立つような構成で展開。参加者にとっては、新たな視座の発見と驚きを感じられた機会になりました。また、翌11月の連休には、南信州全域をエシカルタウンと見立てたイベント「エシカルに染まる秋 in 南信州」が開催され、エシカルマルシェとシンポジウムが行われました。前年から始まった「エシカルマルシェ」も、今年は新型コロナウイルスの感染防止を考慮し会場は設けず、各参加店の通常営業の中に「エシカルマルシェ」としての期間を設けていただきました。普段の買い物を通して、エシカルが当たり前のように暮らしの中にあることを、消費者が気づききっかけになる機会を創出。シンポジウムにおいて

は、ゲストによるオンライン講演のほか、「地域を豊かにする地消地産」をテーマに飯田市長を交えたパネルディスカッションも開催。市民の皆さんの関心の高さを感ずるイベントとなりました。エシカルシンポジウムの様子はこちらからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=DUHrPbfjRc&feature=youtu.be>

松川町をフィールドとした
リモート参加型プロジェクトベースドラーニング(RPBL)の実践
「コミュニティデザイン実践プロジェクト」

松川町役場の新井さん、大澤さんと初めてお会いしたのはCSI開設初年度の2018年。南信エリアに伺った際に、2018年の南信地域コーディネーター森本ひとみさんからご紹介いただいたのが始まりでした。2020年度になって、南信地域コーディネーターに北林さんが着任。改めて「松川町の新井さんがCSIに相談したいことがあるそうなので、おつなぎしたい。」との接続から本格的に関係が深まりました。内容は、松川町が進める「『生きる』と『つくる』をつなぐMMMプロジェクト」そのうちの「若者と地域をつなぐ自立分散型社会の仕組みづくり」で開かれるワークショップに県立大学の学生に来てもらいたい、という相談でした。「最終目標が移住・定住ならば、参加者というライトな関わりだけでなく、一緒に活動すること、例えば、企画運営側に学生が参加することで、彼ら自身も松川町に愛着が湧くし、彼らの生の声を聴いて次の施策に反映できるのでは?」と提案。これがきっかけとなり、松川町をフィールドとするリモート参加型プロジェクトベースドラーニング(RPBL)の企画が始まりました。スペシャルティコーヒーで起業を目指す本学学生(10頁参照・グローバルマネジメント学部3年 大形匠さん/同3年 小倉翔太さん/同3年 堀和基さん)の相談にのるうち、コミュニティ開発も一つの目的であることから、彼らがこのRPBLへの参加を決め、10月から取組を開始。学生の伴走支援は、専門のコーディネート機関「一般社団法人わくわくスイッチ」に依頼(本学理事長裁量経費活用)。RPBLのテーマは「15年先の未来のコミュニティを構想せよ。」。未来に影響のありそうな現在の事象の情報収集を進めながら、松川町での暮らしの専門家といえる松川町民へのインタビュー、コミュニティに関する専門家の講演会への参加や文献等にあたり、未来を洞察(foresight)していきました。仕事の過半

数がAIやロボットに置き換わるといわれています。その中で、学生たちは、コミュニティはかけがえない人同士で紡がれる場となり、豊かな暮らしに繋がるのではないかと考えました。そんな未来のコミュニティ像を想起させるオンラインイベント「Knock the Door」～自分の住んでいる場所の未来、想像しませんか?～を、3月13日(土)に開催しました。なお、RPBLはカミツレ研究所(13頁参照)にもご賛同をいただき、本学学生1名(グローバルマネジメント学部3年 篠達七愛さん)が参加。職場のメンバーの一人として、顧客アンケートの集計から商品企画までの流れに参加し、顔を合わせない中での仕事の進め方をリアルに体験できる貴重な機会を得ることができました。また、リモート参加型という特色を新しい働き方、社会参画の形と捉えていただき、11月に開催されたIT関連イベント「Nagano Fledge(ながのふれっじ)」(主催:長野県、信州ITバレー推進協議会(NIT))で学生たちが実践報告をしました。



下伊那

Community Based Economy に触れて

松川町役場 まちづくり政策課まちづくり推進係 係長 新井 直彦

学生たちとコミュニティについて考えを深めていくうち、ソーシャル・イノベーション創出センター(CSI)からのご紹介で、CSIアドバイザーメンバー桜井肖典氏が呼びかけ人代表となっている「Community Based Economy」の考えに触れました。持続可能なコミュニティをテーマに取り組んできている中で、資本主義社会におけるコミュニティのあり方や、そこでの経済と向き合う姿勢について知見を得ることができました。11月に桜井さんとKUMIKI PROJECT株式会社代表取締役のくわばら ゆうきさんをゲストにオンラインセミナーを開催することができました。「ともにつくること」をコンセプトに、共感していただける方々とどどんと「つくる」ノウハウを共有していけるくわばらさんの姿勢にはこれからのイノベーション創出の形を感じずにはいられません。ぜひ、「生きる」と「つくる」をつなぐMMMプロジェクトにも取り入れていきたいと思えます。



新井さんは、3月5日、6日に開催されたCommunity Based Companies Forum～希望の兆しかもしれない。見本市～(主催:公益財団法人京都高度技術研究所 京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)|一般社団法人リソース、協力:株式会社ウエダ本社)に登壇されました。



MMMプロジェクト
情報サイト

根羽村



瀧内地域コーディネーターが、2019年度から継続している「環境省 地域循環共生圏」の実現に向けたワークショップの運営支援(と講師コーディネート)を担当しています。地域の若者とステークホルダーたちとの対話から、パブリックから稼ぐを担う「地域づくり公社」を立ち上げた昨年度に続き、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、参加者を限定することとなりましたが、その状況を逆手に、村役場で働く25人の職員と、村の掲げるネバーギブアップ宣言にちなみ、「マイネバーギブアップ宣言」として、自分自身や村の未来を思い描くことからスタートしています。ここで描く暮らし自身が「新しい公共」を担う種となっていくよう来年度以降も対話は継続していく予定です。

NANSHIN

組織概要

名称 | 公立大学法人 長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター
(Center for Social Innovation Initiatives,CSI)

設立 | 2018(平成30)年4月1日

所在地 | 長野県長野市西後町614-1 (長野県立大学後町キャンパス)

2020年度
STAFF | 大室悦賀 センター長
公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部教授・企(起)業家コース長

秋葉芳江 チーフ・キュレーター/Office SPES 代表

土屋征寛

川地尚武

小林絵美子

制作 | 瀧内 貫/株式会社コトト 北林 南/DESIGN SOLEIL
間藤 まりの

印刷 | カシヨ株式会社

 <http://www.u-nagano.ac.jp/csi/>

 <http://www.facebook.com/CSI.nagano/>



 **長野県立大学**
THE UNIVERSITY OF NAGANO



長野県立大学は
「長野県SDGs推進企業登録制度」
第1期登録組織です

お問合せ  csi@u-nagano.ac.jp
TEL 026-262-1725 FAX 026-262-1726

発行日 2021年3月30日
※本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください

